



262

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年5月11日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

料理研究家・枝元なほみさんが残したもの

11日(日)＝1、3面

迫る



東京・神楽坂。夜になると、テーブルにおいしそうなパンを並べた店がオープンします。総菜パンから天然酵母使用のパンまでその種類はさまざま。しかしこのパンは、店頭スタッフの焼いたものではありません。このプロジェクトに賛同してくれた協力店に売れ残りそうな商品を提供してもらい、それを店頭で販売する、という仕組みです。

この店は「夜のパン屋さん」と呼ばれ、料理研究家の枝元なほみさん＝写

真＝が発案し軌道に乗せました。枝元さんは料理研究家として数々のテレビ番組や連載で活躍する一方、生活困窮者が豊かに暮らせる方法を考えてきました。試行錯誤の末、たどり着いたのがこの「夜のパン屋さん」でした。

雇用の確保だけでなく、フードロス対策にもつながる――。しかし枝元さんは今年2月、病でこの世を去ります。生前、記者の取材に応じてくれました。彼女の思いは今、どのような形で受け継がれているのでしょうか。

そこが聞きたい 旧統一教会信者と対話する僧侶

11日(日)＝くらしナビ面

東京地裁が3月、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)に解散を命じる決定を出しました(教団は即時抗告)。社会が教団に対して厳しい目を向ける中、脱カルト支援に取り組む僧侶の瓜生崇さ

ん(51)＝写真＝は、教団を追い詰めて「消滅」させることが問題の解決なのかと問います。

現役信者と対話を重ねてきた瓜生さんに、何ができてきたのかを聞きました。



論点 増加する子どもの自殺

日本の自死者数全体は、コロナ禍の際に一時増えたものの、2010年以降は減る傾向が続いています。そのなかで、子どもの自死者数はコロナ禍の前から増え続けており、24年は過去最高となりました。

日本は子どもにとって生きることに厳しい社会になっているのでしょうか。認定NPO法人キッズドア理事長の渡辺由美子さんとノートルダム清心女子大教授の山下美紀さんに聞きました。

14日(水)＝オピニオン面

特集 ワイド

文壇バー「風花」45周年

12日(月)＝夕刊2面



ビルの地下へおりていくと、やや朽ちた看板が迎えてくれます。棚には常連の作家らによる献呈本がびっしりと並んでいます。東京・新宿の文壇バー「風花」＝写真＝は1980年の開店から45年。

カウンターの向こうから店を切り盛りしてきたのは84歳の滝澤紀久子さんです。自らも長年にわたって通ってきた鈴木琢磨・客員編集委員が、とっておきの思い出語りに耳を傾けました。

竹橋の窓びっかい

編集後記



最近、毎日小学生新聞をお孫さんにプレゼントできる「ギフト購読」への関心が高まっています。毎小は漫画や歴史、天文など幅広いジャンルのコンテンツが盛りだくさん！大切なお子さまの学びに役立ちます。専用サイトからお申し込みください。遠くに住んでいても簡単にプレゼントできます。詳細はQRコードか、「毎小ギフト購読」で検索を。



【中村馨】

毎日新聞